

## 令和2年度 札幌市交通事業 予算の概要（別紙）

### 1 軌道整備事業会計の予算のポイント

#### (1) 予算総括表について（1頁）

「営業収入」は、8億9,900万円で、令和2年度からは上下分離の導入により、軌道運送事業者からの施設使用料収入が主なものとなります。

「営業支出」は、15億3,400万円で、派遣職員人件費のほか、施設の保守や修繕に要する維持管理費や減価償却費を計上しています。

「営業外収支」、「特別利益」を加えた「収益的収支差引」は、1,000万円の赤字となり、元年度予算からは1億7,200万円の好転となります。

「資本的収入」から「資本的支出」を差し引いた「資本的収支差引」は、8,900万円の不足となります。

「累積資金過不足額」は、1億9,000万円の資金残となり、元年度予算からは3,800万円の好転となります。

#### (2) （参考）業務量（軌道運送事業）について（2頁）

「一日平均乗車人員」は、元年度上半期の乗車人員の状況等を踏まえ、元年度予算から456人の増の2万4,759人と見込みました。

乗車料収入は、15億1,400万円となります。

#### (3) 主要事業の概要について（3頁）

建設改良費は、総額9億1,900万円と元年度予算から18億9,300万円の減となります。

この予算減少は、国の補正予算に伴う令和2年1定補正予算へ街路拡幅関連事業等を前倒ししたことによるものです。

補正による前倒しがなかった場合は、19億1,700万円と令和元年度から1億300万円の増となります。

#### (4) 過去5年間の傾向について（4頁）

(1)の折れ線グラフは「1日平均乗車人員」と「乗車料収入」の推移です。

(2)の「経常収支」の状況については、施設使用料収入では経費を賄えず、前年度に引き続き赤字の状況が続いております。

(3)は「企業債」の状況については、2年度予算では償還額が借入額を上回り、企業債残高は折れ線グラフで示したとおり減少に転じる見込みです。

(4)の「資金」の状況については、平成29年度以降、経常収支の悪化などに伴い、減少が続いていましたが、2年度予算は元年度予算から3,800万円の好転となります。

## 2 高速電車事業会計の予算のポイント

### (1) 予算総括表について (5頁)

「営業収入」は、466億3,100万円で、乗車料収入が主なものとなります。

「営業支出」は、372億6,200万円で、人件費、経費及び減価償却費を計上しています。

「営業外収支」、「特別利益及び損失」を加えた「収益的収支差引」は、営業収支が、乗車料収入の増加などにより11億3,900万円の増となったことなどにより、100億1,000万円の黒字となり、元年度予算からは、17億6,900万円の好転となります。

「累積資金過不足額」は、10億4,600万円の資金残となり、元年度予算からは、8億4,300万円の好転となります。

### (2) 業務量について (6頁)

「輸送人員の一日平均」については、令和元年10月の消費税増税に伴う料金改定を考慮しつつ、直近の乗車人員の状況等を踏まえ、元年度予算から1万5,000人の増の64万4,000人と見込みました。

乗車料収入は、434億8,400万円となります。

### (3) 主要事業の概要について (7頁)

建設改良費は、総額131億4,100万円と令和元年度予算から約12億3,400万円の増となります。

建設改良事業の大部分は、施設設備の老朽化に伴う改修工事となります。

### (4) 過去5年間の傾向について (8頁)

(1)の折れ線グラフは「1日平均乗車人員」と「乗車料収入」の推移です。

(2)の「路線別の1日平均乗車人員の推移」の状況については、(1)の乗車人員の内訳であり、平成28年度より東西線が南北線を上回っています。

(3)の「経常収支」の状況については、今年度も黒字を維持する見込みです。

(4)は「企業債」の状況については、借入額を上回る償還を行うことで折れ線グラフのとおり、引き続き企業債残高の縮減に努めていきます。